

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 14 日

評価対象事業		評価者	市民健康課長 菊池 隆
健福-35	実施事業	産科診療所支援事業	■ 自治事務
	まち・ひと・しごと		□ 法定受託事務
総合計画上の位置付け		分野	健康福祉
		施策の方針	市民の健康と安心づくりの推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民一人ひとりの保健衛生知識の啓発を図るとともに、補助団体等の活動促進を図るため。
効果	市民の健康衛生の水準を向上させる。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 産科医師等に分娩手当を支給している医療機関に対し補助金を交付した。 出産環境を改善するために、鎌倉市医師会立産科診療所の運営事業を支援した。 鎌倉市医師会立産科診療所の運営について透明性を確保するため、鎌倉市医師会が開催する、市民、学識経験者を交えた運営協議会について協力・支援した。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		データ区分	02年度(2020年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	176,608人	83,058世帯		・各年3月31日 (住民基本台帳)
事業の対象者数								
運営資源状況	決算値(千円)	118,550	127,078	当初予算(千円)	135,699			
	国県支出金	480	420	国県支出金	433			
	地方債	0	0	地方債	0			
	その他	0	2,658	その他	0			
	一般財源	118,070	124,000	一般財源	135,266			
	人員配置数	0.4	0.4	人員配置数	0.4			
人件費(千円)	3,153	3,240	人件費(千円)	3,251				
事業経費運営	総事業費(千円)	121,703	130,318	総事業費(千円)	138,950			
	市民1人当りの経費(円)	690	739	市民1人当りの経費(円)	787			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1. 減少している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有 効 性	事業の成果は得られているか	1. 成果は出ておらず、改善が必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-2. 適正な受益者負担を導入している
		△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施
		協働実施済の場合のパートナー
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input checked="" type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他
		見直しの内容 事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input checked="" type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由
		事業の廃止に向けて鎌倉市医師会と協議を進めているが、廃止に係る費用を令和3年度以降に計上する必要があるため、廃止が決定しても、予算規模を縮小して計上する必要がある。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	経営改善のため、妊産婦健診、一か月健診、新生児等訪問、産後ケアや各種教室等の開催により事業を拡大し、一定程度の歳入増加が図られたことは評価される。しかしながら、市内全体の出生件数が減少していることに伴い、分娩件数の減少にも歯止めをかけられない状態であり、大幅な補助金額の削減には至らなかった。事業廃止に向けて鎌倉市医師会と協議を進めていく必要がある。	

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	・ティアラかまぐらの今後のあり方(将来的な展望及び今後の役割等)について鎌倉市医師会と協議を開始したが、平成29年12月に鎌倉市医師会からティアラかまぐらの存続についての要望書と経費削減案が提示された。平成31年度は経費削減案から人件費削減案の一部を実施することとしたため、予算規模が縮小している。しかし、大幅な縮小には繋がらないため、引き続き、今後の方向性について鎌倉市医師会と協議を続ける。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・助産師等による母乳外来の充実(ティアラ以外で出産した場合も対応)や産後ケア(空ベットの活用等)、各種教室の開催、予防接種の実施(インフルエンザや風しん等)、婦人科検診等を実施し、収入及び利用者の一部増加に繋がった。 ・鎌倉市医師会と今後のあり方について協議を行った。 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	・平成29年12月に鎌倉市医師会から提示された経費削減案に基づき、ある程度の削減が実施されたものの、分娩数の減少による補助金増額に歯止めがきかず、この傾向は今後も続くことが見込まれることから、事業廃止に向けて鎌倉市医師会と協議を進める。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	分娩取扱施設(上段:施設数/下段:人口10万人対)(鎌倉市以外の地域は、H30神奈川県地域医療構想資料より抜粋)※市町村別は未公表							
団体名	鎌倉市	神奈川県	横浜	横須賀・三浦	湘南東部	湘南西部		
他市実績	4 2.3	147 1.6	53 1.4	14 1.9	17 2.4	10 1.7		

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	他市と比較して、人口10万人あたりの分娩取り扱い施設数は充実している。
----------------------	-------------------------------------

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	取扱分娩件数	単位	件	指標の傾向	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
取扱分娩件数が補助額の増減に直結するため。	目標値	265	210	210	165	180	180	開設当初の分娩件数目標は、360件
	実績値	219	217	175	158	144	126	
	達成率	82.6%	103.3%	83.3%	95.8%	80.0%	70.0%	

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	ティアラかまぐら開設当時は市内に分娩施設が2か所(湘南鎌倉総合病院、ティアラかまぐら)しかなかったが、現在は4か所(湘南鎌倉総合病院、ティアラかまぐら、矢内原医院、湘南鎌倉バースクリニック)と増加している。ティアラかまぐら開設当初の取扱分娩件数の目標は360件であったが、分娩施設が増加していることを踏まえ、取扱分娩件数の目標は180件とした。ティアラかまぐらでは各種教室や施設見学会を開催する等、経営努力を行っているが、平成28年度に市内に新たな産院が開設されたことや全体的な出生数の減少などの影響により、分娩件数は年々減少しており、令和元年度は126件となった。
-----------------------	---